



NEWS RELEASE

株式会社 すららネット
2026年5月8日

夜間中学で進む“日本語と学び直しの一体支援” 福井県立若杉中学校が開校と同時に AI教材「すらら にほんご」「すらら」を同時導入

AIを活用したアダプティブな対話式 ICT教材の開発と提供を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役：湯野川孝彦）の ICT教材「すらら にほんご」と「すらら」が、2026年4月に開校した夜間中学校の福井県立若杉中学校において同時に導入されました。

本取り組みは、夜間中学において日本語学習と基礎学力の習得を一体的に支援するものであり、開校当初から両教材を同時に導入する事例としては初めてです。

夜間中学に求められる多様性への対応と学びの保障

福井県立若杉中学校は、2026年4月に開校した県立の夜間中学です。夜間中学には、不登校経験者、義務教育未修了者、外国にルーツを持つ生徒など、年齢や背景、学習経験が大きく異なる生徒が在籍しています。

こうした環境では、理解度や言語状況に差がある中で同じ授業を行うことが難しく、一人ひとりに応じた学びの提供が大きな課題となっています。特に外国ルーツの生徒においては、日本語の習得が教科学習の理解に直結するため、「日本語を学ぶこと」と「教科を学ぶこと」をどのように接続するかが現場で求められてきました。

今回の導入は、日本語学習と教科学習を分断せず、段階的かつ並行して支援する体制を構築するものであり、多様な学びを支える夜間中学における取り組みの一つです。

福井県立若杉中学校 松山 強 教諭のコメント

福井県立若杉中学校は、令和8年4月に開校した夜間中学です。本校には、年齢や国籍、学習経験が大きく異なる多様な生徒が在籍しています。そのため、一斉指導では対応しきれない学習における課題が挙げられてきました。「すらら」は、生徒一人ひとりの理解度や学習ペースに応じて内容を調整できる点で、個別最適化を実現する有効な手段の一つだと考えています。

既に、授業で活用している教員からは、数学科における「導入動画の効果で、生徒が一つずつ丁寧に段階を踏んで学習できている」という声や、社会科の「自身の学習状況に応じたレベルの問題を自ら選ぶことで、意欲向上や前向きな姿勢に繋がっている」といった、学習の質の変化を実感する意見が寄せられています。また、英語科では「教科書単元だけでなく、系統立てられたリストから選択できることで生徒のつまづきが可視化できている」と指導面でのメリットを挙げています。

今後はさらに基礎学力の定着や学び直しへの意欲喚起にも活用し、より良い活用方法を模索していこうと考えております。

「日本語」だけで終わらせない、学び直しまでつなげる仕組み

これまで、日本語学習 ICT 教材「すらら にほんご」は、夜間中学や公教育の現場において、外国ルーツの生徒の日本語指導における有用性が注目されてきました。実際に、静岡県の夜間中学などでの活用を契機に問い合わせが増加し、導入も拡大しています。日本語を学んだ後に教科学習へどのようにつなげていくかは、現場における課題の一つとなっていました。

今回、基礎学力の習得を支える「すらら」を同時に導入することで、日本語の理解にとどまらず、数学や社会、英語などの教科学習へと段階的に移行することが可能となります。これにより、学び直しを必要とする生徒を含め、より幅広い生徒の学力保障に対応する環境づくりが進みます。

多様な学びのカタチを夜間中学から

全国的に不登校や外国ルーツの児童生徒の増加が課題となる中、夜間中学の役割は一層重要性を増しています。福井県立若杉中学校での取り組みは、こうした課題に向き合いながら、学びの機会をどのように保障していくかについて、学校現場とともに実践を重ねていく取り組みです。

すららネットは、学習機会が分断されることなく、すべての子どもたちが自分のペースで学び続けられる環境の実現を目指しています。今後も、夜間中学をはじめとする多様な学びの現場と連携し、日本語学習と教科学習を一体的に支援する ICT 活用の実践を広げてまいります。

■AI×アダプティブラーニング教材「すらら」

「すらら」は、小学校から高校までの国語、算数／数学、英語、理科、社会、情報Ⅰの6教科の学習を、先生役のアニメーションキャラクターと一緒に、一人一人の理解度に合わせて進めることができるアダプティブな ICT 教材です。レクチャー機能、ドリル機能、テスト機能により、一人ひとりの学力に応じて理解→定着→活用のサイクルを繰り返し、学習内容の理解と定着をワンストップで実現します。初めて学習する分野でも一人で学習を進めることができるのが特長で、学習塾をはじめ、小・中・高校、高等教育機関、放課後等デイサービスや個人学習等幅広い活用が広がっています。



■日本語学習 ICT 教材「すらら にほんご」

「すらら にほんご」は、国内外の外国にルーツを持つ人々が、就労・留学・日常生活に必要な日本語を、楽しく・無理なく習得できる ICT 教材です。学習者のレベルに応じて、基礎から応用まで段階的に学べる構成となっており、書写機能を使って文字を書く練習も可能です。

また、意味を母語で確認しながら学習できるため、初学者でもゼロから一人で学び進めることができます。さらに、アニメーションキャラクターの登場やゲーミフィケーションの要素を取り入れ、学習意欲を高める工夫も多数搭載。世界中どこにいても、正しい発音で日本語を体系的に

学べるのが特長です。現在は日本語能力試験の N5、N4 レベルのコンテンツがあり、英語、クメール語、インドネシア語に対応しています。2026年には、さらに中国語、ネパール語、ポルトガル語、フィリピン語、スペイン語、ベトナム語など、11言語を追加します。

すらら*にほんご



日本e-Learning大賞
日本語教育特別部門賞受賞

■株式会社すららネット

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念に掲げ、AI を活用したアダプティブな対話式 ICT 教材「すらら」などを開発・提供しています。現在、国内の3,100校以上の学校や学習塾で導入され、約26万人の児童生徒が利用しています。全国の公立学校や有名私立学校、大手塾での活用が広がる一方、不登校や発達障がい、経済的困難な状況の子どもたちにも学習機会を届けることで、教育課題の解決に取り組んでいます。2017年に、代表的な EdTech スタートアップ企業として東証マザーズ市場（現東証グロース市場）に上場しました。

- ・コーポレートサイト <https://surala.co.jp/>
- ・サービスサイト <https://surala.jp/>